

輝くまなざしは 未来を見据えて

学校教育課(88)9168

1月30日「中学生による模擬議会」を開催しました。各中学校・義務教育学校の代表生徒が議員となり、ふるさと須賀川への思いを込めて10の質問をしました。中学生議員の皆さんは、議会を体験することで市の施策やまちづくりに関心を深め、議会や政治の仕組みを学びました。質問と市の答弁の概要を紹介します。



皆さん真剣に答弁を聞き、関心を深めました

番号	氏名	学年	学校名
1	滝口 鈴音	2	第一中
2	小熊 祥太	2	
3	壁谷 大	1	
4	沼田 結愛	2	第二中
5	佐久間 大希	2	
6	飯塚 美玲	1	
7	関根 颯音	2	第三中
8	釋 理恵	2	
9	筋内 綾乃	1	
10	黒津 昂大	2	西袋中
11	宗形 有真	2	
12	小川 杏凜	1	

番号	氏名	学年	学校名
13	相樂 陽愛	2	小塩江中
14	佐久間 大樹	1	
15	田中 翔人	2	仁井田中
16	影山 洸明	1	
17	須田 虎汰郎	2	大東中
18	永山 采奈	2	
19	深谷 結依	2	長沼中
20	大河原 昇吾	1	
21	相樂 ひかり	2	岩瀬中
22	阿保 緋衣侶	2	
23	岩崎 駿	8	稲田学園
24	小針 美優	8	



市のまちづくりなどを質問した中学生議員の皆さん

水害対策について



第一中
滝口 鈴音 さん

Q 釈迦堂川・阿武隈川の水害対策の現状を教えてください。

A 釈迦堂川では、県が河川内の樹木伐採や河道整正、堤防の嵩上げを行いました。阿武隈川では、国が決壊した堤防の復旧や樹木伐採、堤防強化の対策を行いました。現在は、河道掘削や橋梁の架け替えが行われ、堤防整備や本市上流域で雨水排水を一時的に貯留させる遊水地群の整備なども計画されています。

Q 集中豪雨に対してどのような対策が行われていますか。

A 笹平川の分水路や流域の田んぼダム、西川中央公園の雨水一時貯留施設などを整備しています。流域の関係者全員が連携して対策に取り組み、積み重ねることで、防災・減災に大きな効果が期待されます。

下水道について



第二中
沼田 結愛 さん

Q 市内の下水道普及率の現状を教えてください。

A 本市では、生活排水を主に公共下水道、農業集落排水処理、合併処理浄化槽の3つの方式で処理しており、各地域の地形や特性などを考慮して、効率的に組み合わせています。令和3年度末の汚水処理人口普及率は83・7%で、県の平均と同程度となっています。

Q 中学生にもできる対策と、今後の課題を教えてください。

A なるべく汚れた水を流さないことが重要で、一人ひとりの行動が水環境の向上につながります。課題は、公共下水道などが整備されている地域で、下水道施設に接続していない家庭が多いことや、単独処理浄化槽などを使用している家庭の合併処理浄化槽への切り替えが進んでいないことなどです。

駅周辺の再開発について



第三中
関根 颯音 さん

Q 須賀川駅周辺における再開発の現状を教えてください。

A 現在は、国道4号から駅西地区までの幹線道路と周辺道路を整備しています。JR東日本と連携し、駅の東側と西側をつなぐ東西自由連絡通路と、新駅舎の整備に着手しており、令和7年春の利用開始を目指しています。駅西側の駅前広場の整備や既存駅舎を観光交流施設にリノベーションするなど、令和8年度の事業完了に向け、取り組んでいます。

Q 再開発により期待される効果を教えてください。

A 駅の利便性向上と駅前交通の混雑の緩和、地域のつながりを促進する効果などが期待できます。駅周辺地域のにぎわい創出と地域コミュニティの活性化が図られ、魅力的なまちづくりにつながると考えます。

学校給食について



西袋中
黒津 昂大 さん

Q 学校給食の食べ残しの処理方法や費用を教えてください。

A 各学校や給食センターなどでは、市内のリサイクル企業に運搬し、肥料としてリサイクルしています。令和3年度は、4万860kgの生ごみが発生し、このうち食べ残しの量は約55%で、処理費用は404万8352円です。

Q 学校・生徒にできる食べ残しの削減方法を教えてください。

A 学校給食は成長に必要な栄養を考慮し、献立や量が決められています。食事量には個人差がありますが、残さず食べることで、生ごみの発生や処理費用の削減につながります。市では、おいしい給食づくりに努めながら、授業や給食だよりなどで食べる大切さを伝え、生ごみを減らす取り組みを進めています。



小塩江中
相樂陽愛 さん

大型ごみの不法投棄について

Q 大型ごみの不法投棄はどのように把握していますか。

A 各町内会・行政区で任命している市環境推進員や、県が委嘱する不法投棄監視員などと協力し、監視パトロールを行うなど、不法投棄の防止と把握に努めています。警告看板の設置や防犯カメラの貸し出しなども行っており、悪質なケースは、警察と連携を図りながら対応しています。

Q 「大型ごみの処理方法のCM放送」「スポーツとしてのごみ拾い大会の実施」「ごみ処理に対するポイント付与」を提案します。

A 今回の提案なども踏まえ、新たな対策を検討し、引き続き広報すかがわやウルトラFM、SNSなどで啓発活動をしなが、不法投棄の防止やごみ削減に向け、市民の皆さんと協力して取り組んでいきます。



仁井田中
田中翔人 さん

まちづくりビジョンについて

Q 今年度までの計画の具体的な施策と課題を教えてください。

A 子育て・教育・医療・福祉など各分野にわたり、市民・訪れる人・企業など、あらゆる人に「選ばれるまち須賀川市」の実現に向けた取り組みを進めてきました。地域コミュニティ活動の低下や高齢化に伴う公共交通の確保、防災・減災対策などが課題です。

Q 来年度以降の新たな計画を教えてください。

A 将来都市像を「共につくる住み続けたいまちすかがわ」とし、誰もが住み続けたいと思えるだけでなく、進学などで転出した人も須賀川に戻りたいと思えるまちづくりを目指します。地域コミュニティ活動の推進や急速なデジタル化への対応、シティブロモーションの推進など様々な取り組みを進めていきます。



大東中
須田虎汰郎 さん

防災行政無線について

Q 防災行政無線の設置状況はどうなっていますか。

A ポールタイプの屋外拡声子局を市内全域の200カ所に設置するほか、屋内で聞くことができる戸別受信機を避難所となる体育館や消防団の屯所など196カ所に整備しています。浸水や土砂災害のおそれがあるなど、早目に避難が必要な地域の居住者には、自宅に戸別受信機を無償で貸与しており、1591カ所に貸与しています。

Q 設置範囲を拡大するような計画はありますか。

A 住家のある地域に屋外拡声子局の放送が届くように設置しているため、屋外拡声子局を増設する計画はありません。放送内容は、電話で確認できるほか、市防災ホームページや市公式SNS、テレビのデータ放送など多様な方法で周知しています。



長沼中
深谷結依 さん

高齢化の現状と支援策について

Q 市内と長沼地域の高齢化の現状や傾向を教えてください。

A 令和4年の市全体の高齢化率は29・45%で、平成30年から2・51%増加しています。長沼地域の高齢化率は38・24%で、平成30年から3・66%増加しています。令和9年の市全体の高齢化率は31・90%と推計され、高齢化がますます進んでいくことが見込まれます。

Q 具体的な支援策を教えてください。

A 見守りを兼ねて昼食を宅配するなどの「福祉サービス」としての見守り、企業が配達などの際に発見した異変を連絡する「企業と提携した見守り」、民生委員による見守り活動や敬老会の開催などの「地域での見守り」などの支援策を行っています。



岩瀬中
相楽ひかり さん

特撮文化の活用について

Q 須賀川特撮アーカイブセンターの来館者数を教えてください。

A 令和2年度が1万3646人、令和3年度が2万2612人、令和4年度が12月末現在で2万3753人と年々増加しており、来館者数は6万人を超えています。

Q 交流人口の拡大を図るために、どのような取り組みをしていますか。

A 特撮をより身近に感じるワークショップの開催や、市内の中高生を対象に「すかがわ特撮塾を開講し、多くの皆さんが参加しました。また、特撮関係団体と連携協定を結び、特撮の魅力を全国に発信しています。今後も、特撮アーカイブセンターや円谷英二ミュージアムなどの特撮関連施設をPRし、交流人口の更なる拡大に取り組んでいきます。



稲田学園
岩崎 駿 さん

情報発信について

Q 市では、現在どのような公式SNSがあり、利用者数はどのくらいですか。

A 市公式SNSには、LINE、フェイスブック、ユーチューブがあり、各SNSの利用者数は、1月4日現在で、市公式LINEが6296人、市公式フェイスブックが1949人、ユーチューブ市公式チャンネルが4190人です。

Q 公式SNSの利用者を増やすためにどのような取り組みをしていますか。

A 広報すかがわや市ホームページ、ウルトラFMなどでのPRを続けていきます。今後も、市公式SNSを継続して発信・案内するとともに、市公式LINEでは、市民のニーズに合った機能を充実させるなど、利用者数の拡大を目指していきます。



①JR須賀川駅舎西側の完成予想図 ②ごみの投げ入れ体験 ③公民館では様々な講座を開催 ④「通いの場」でいつまでも生き生き ⑤怪獣を手作りした「すかがわ特撮塾」 ⑥「ウルトラFM」では市内の情報を発信中

